

 asics®



sound  
mind  
sound  
body

**ASICS**通信

2007.4.1~2007.9.30

*54<sup>th</sup> Term*

証券コード:7936

アシックスはステークホルダーの皆様とのより緊密な双方向コミュニケーションを図りながら、当社の企業姿勢に対するご理解を深めていただきたいと考えております。今回は、5か年の中期経営計画「アシックス・チャレンジ・プラン（ACP）」の目標達成のための施策を社長の和田がご説明します。



代表取締役社長 和田 清美

今中間期の業績は、引き続き海外事業が順調に推移したことにより、増収増益となりました。海外事業を安定成長させていくとともに、国内の活性化を図ることで、中期経営計画「アシックス・チャレンジ・プラン（ACP）」の目標達成を目指します。

また、9月29日に、当社の創業者である鬼塚喜八郎会長が逝去しました。私が会長の思いを継承する「伝道者」となり、会長の思い、夢をさらに広げていきます。

アシックスの軸足—和田社長インタビュー	...1
連結営業概況	.....5
連結財務諸表	.....6
単体財務諸表	.....8
鬼塚会長を偲んで	.....9
会社の概況	.....10
株式の状況	.....11

## 当中間期も好業績をあげられましたが、和田社長の評価をお聞かせください。

ACPの2年目である第54期中間期（2007年4月1日から9月30日まで）の連結業績は、売上高1,087億円、営業利益125億円、中間純利益82億円と、前年同期間比で増収増益を実現しました。しかし、私はこの結果には満足していません。これまでと同様に海外事業が業績を牽引したものの、国内においては苦戦が続いているからです。それでも戦略的に今上期は広告宣伝費を集中投資していますので、これから成果があがってくるものと考えています。

一方、ACPの目標を達成するために必須な社内の意識改革については、着実に前進しているととらえています。社員一人ひとりがACPの趣旨を理解し、目標達成へ同じベクトルで取り組んでいくことで必ずいい流れが出てくるものと期待しています。

## 好調な海外事業ですが、さらなる成長に向けた戦略をお聞かせください。

地域別に見ると、ヨーロッパでは、「アシックス」とスポーツライフスタイルの領域に特化した「オニツカタイガー」という2つのブランドを柱として展開していることが強みとなり、高いシェアを確保しています。しかし、近年は競争の激化もあり、これまで通りの高い成長を続けることが難しくなってきました。したがって、特定の国の売上に依存するのではなく、ヨーロッパ全体で業績を拡大し、安定成長させていきたいと考えています。そのため、ロシアなど、これまで未開拓であった地域にも販売を拡大していくことを計画しています。

アメリカでは、文化的な違いもあり、ヨーロッパと同じようなスポーツライフスタイル事業は育ちにくいと考えています。ランニングを中心としながら、

### アシックスブランド



ランニングシューズ  
「GELXCEL」



バスケットボールシューズ  
「GELBUMP 2」

### オニツカタイガーブランド



アシックスストライプ  
が初めて搭載されたモ  
デルをモチーフにした  
レザーズニーカー  
「MEXICO66 LAUTA」



ボウリングシューズを  
モチーフにしたレザー  
ズニーカー  
「SPLIT HI」



「EDWIN」と  
「オニツカタイガー」の  
コラボレーションジーンズ



女性用  
ウォーキングシューズ  
「WALLAGE」



動物をモチーフにした  
赤ちゃん向けシューズ  
「アニマルファースト」

アメリカの文化や風土に合うスポーツスタイル商品の確立に引き続き取り組んでいきます。また、本年よりアメリカの子会社としてスタートを切ったブラジルでは、展示・受注会に好印象・高感度を持って迎えられ、軌道に乗り始めています。現地生産を行うために協力工場と立ち上げ準備を進めているところです。

アジアでは、中国、台湾、香港での事業基盤を早期に構築するとともにアジア全域での売上を拡大します。そのため、アメリカやヨーロッパでの成功体験を活かし、当社が強みを持つランニングを中心に据えて戦略を再構築していきます。

### 国内市場は依然として停滞が続いていますが、どのように打開していこうとお考えですか。

キーワードのひとつ目は「健康」です。近年の健康志向の高まりなどもあり、健康の維持・増進のためにランニングなどのスポーツをする方が増えてきています。そのため、スポーツ産業という観点で考えると市場は成熟しているかもしれませんが、健康産業という視点で見れば、市場はまだ無限の広がりを持っています。当社にはシューズからアパレルまでをトータルにコーディネートできるマーケティング力と技術力があります。その強みを活かして、シューズにアパレルを加えた、ライフスタイルの新たな提案をしていきたいと考えています。今期に株式会社エドウィンとの協業で、「EDWIN」と「オニツカタイガー」のコラボレーションジーンズを発売したことも、この一例です。

ふたつ目は当社が強みを持つランニング事業のさらなる拡大です。2007年2月に、国内におけるランニングの普及と当社のブランドイメージの一層の向上を図るため、東京銀座に「アシックスストア東京」を開設しましたが、女性のお客が多く来店されるなど、予想以上の成果があがっています。情

報発信基地としての機能を最大限に活用するとともに、直営店で獲得したノウハウを専門店でのコーナー展開やフランチャイズ展開も視野に入れて、国内事業の活性化を図っていきます。

### 第54期通期の見通しと今後に向けた課題についてお話しください。

今期におきましても計画通りの業績を達成できるよう、邁進しているところです。海外事業はACPの計画を1年前倒して進めていますし、国内も支社・販売会社によるグループ販売体制の構築や新しい小売形態の開発なども着実に進展しています。課題はスポーツアパレルの体制構築です。当社のコアであるシューズにアパレルを加えた新たな提案を行うことで、当社のさらなる成長が実現できると考えています。

なお、9月29日に、当社の創業者である鬼塚喜八郎会長が逝去しました。会長は、常にものづくりに情熱を注ぎ、ものづくりを通じて社会に貢献することを考えており、私も鬼塚会長から多くのことを学びました。鬼塚会長の思いを受け継ぎ、確かな技術力で価値ある商品をつくり社会に貢献し続けることが残された者の使命です。私は会長の思いを継承する「伝道者」でありたいと考えており、グループの社員全員で会長のDNAを引き継いでいきたいと考えています。

株主の皆様には、これまでと同様のご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成19年12月

代表取締役社長

和田清美



## 連結営業概況

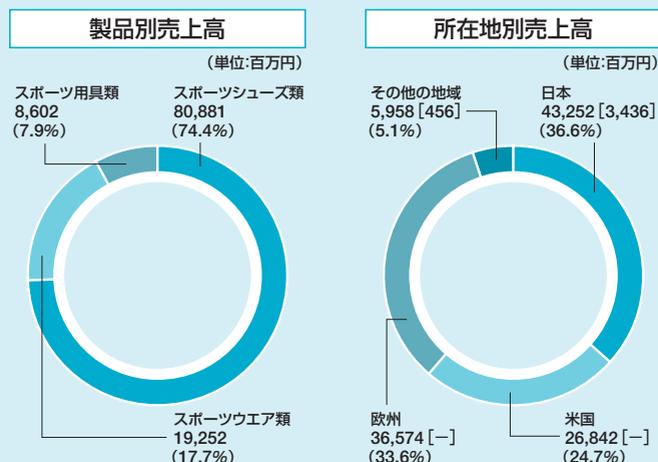
当中間連結会計期間における日本経済は、個人消費が底堅く推移するなか、企業収益は改善し、設備投資も増加するなど、景気は緩やかに回復してまいりました。世界経済は、原油価格など一部に懸念材料はあるものの、回復してまいりました。スポーツ用品業界につきましては、健康志向によるスポーツへの関心の高まりが見られ、概ね堅調に推移しました。

このような情勢のもと、当社グループは、引き続きランニング事業の強化・拡大を図るとともに、欧州における5店舗目の直営店「オニツカタイガーチューリッヒ」のオープン、ブラジルにおける販売活動の開始など、グローバルレベルでの売上拡大に努めました。日本におきましては、主要都市において駅貼り広告やブランドキャンペーンを展開するなど、広く消費者にアシックス独自のブランドイメージの高揚を図りました。また、「EDWIN」と「オニツカタイガー」のコラボレーションジーンズの発売や、子ども用シューズ発売開始から10周年を記念し、赤ちゃん向けシューズ「アニマルFIRST（ファースト）」を全国の百貨店、スポーツ用品店、靴店などで発売するなど、販売促進に努めました。

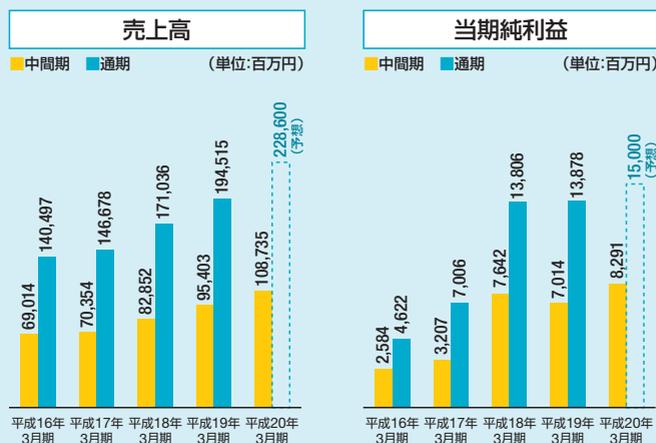
マーケティング活動の一環としては、「ハンブルグマラソン」、「ゴールドコーストマラソン」など世界の主要マラソンのオフィシャルス

ポンサーとして、参加ランナーへの情報・サービスの提供、チャリティーなども行うとともに、「東京マラソン2008」について、第1回大会に引き続きオフィシャルスポンサーとなることを合意するなど、アシックスブランドの認知度向上に努めました。また、アシックスグループ全体のさらなる売上の拡大を図ると同時に企業価値の向上を図るため持分法適用関連会社であるアシックス商事株式会社を公開買付けにより連結子会社といたしました。

当中間連結会計期間における連結売上高は、1,087億3千5百万円と前年同期間比14.0%の増収でした。このうち国内売上高はウォーキングシューズおよびランニングシューズが好調でしたので、387億9千9百万円と前年同期間比4.5%の増収、海外売上高はスポーツウエア類は低調でしたが、ランニングシューズおよびスポーツスタイルシューズが引き続き好調に推移しましたので699億3千6百万円と前年同期間比20.0%の増収となりました。損益につきましては、営業利益は125億8千1百万円と前年同期間比16.4%の増益、経常利益は132億5千2百万円と前年同期間比10.1%の増益、中間純利益は82億9千1百万円と前年同期間比18.2%の増益となりました。



※ [ ] 内は、セグメント間の内部売上高です。



# 連結財務諸表

## 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前中間 連結会計期間末 (平成18年9月30日)	当中間 連結会計期間末 (平成19年9月30日)	増減額	科目	前中間 連結会計期間末 (平成18年9月30日)	当中間 連結会計期間末 (平成19年9月30日)	増減額
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
<b>流動資産</b>	<b>96,008</b>	<b>124,627</b>	<b>28,618</b>	<b>流動負債</b>	<b>38,536</b>	<b>48,007</b>	<b>9,470</b>
現金及び預金	11,224	18,921	7,696	支払手形及び買掛金	16,829	16,473	△355
受取手形及び売掛金	46,376	59,143	12,766	短期借入金	7,746	9,473	1,727
有価証券	1,202	1,387	185	1年以内に償還の社債	—	3,200	3,200
たな卸資産	32,835	38,300	5,465	未払法人税等	3,292	3,957	664
その他	6,763	9,242	2,478	返品調整引当金	613	707	94
貸倒引当金	△2,395	△2,368	26	賞与引当金	1,290	1,469	178
<b>固定資産</b>	<b>41,547</b>	<b>44,836</b>	<b>3,289</b>	その他	8,763	12,725	3,961
<b>有形固定資産</b>	<b>16,365</b>	<b>20,570</b>	<b>4,204</b>	<b>固定負債</b>	<b>15,714</b>	<b>13,111</b>	<b>△2,602</b>
建物及び構築物	7,126	9,896	2,769	社債	3,200	—	△3,200
土地	5,979	7,306	1,327	長期借入金	4,272	3,890	△381
その他	3,258	3,367	108	退職給付引当金	6,497	7,092	594
<b>無形固定資産</b>	<b>1,984</b>	<b>3,925</b>	<b>1,941</b>	役員退職慰労引当金	499	—	△499
<b>投資その他の資産</b>	<b>23,197</b>	<b>20,340</b>	<b>△2,856</b>	その他	1,245	2,129	883
投資有価証券	15,609	11,762	△3,847	<b>負債合計</b>	<b>54,251</b>	<b>61,118</b>	<b>6,867</b>
その他	8,150	9,262	1,112	<b>純資産の部</b>			
貸倒引当金	△562	△683	△121	<b>株主資本</b>	<b>77,161</b>	<b>89,910</b>	<b>12,749</b>
<b>① 資産合計</b>	<b>137,556</b>	<b>169,463</b>	<b>31,907</b>	資本金	23,972	23,972	—
				資本剰余金	17,182	17,182	—
				利益剰余金	36,469	49,410	12,940
				自己株式	△463	△654	△191
				<b>評価・換算差額等</b>	<b>3,193</b>	<b>8,275</b>	<b>5,082</b>
				その他有価証券評価差額金	3,415	3,071	△343
				繰延ヘッジ損益	303	156	△147
				土地再評価差額金	△747	—	747
				為替換算調整勘定	221	5,047	4,826
				<b>少数株主持分</b>	<b>2,950</b>	<b>10,158</b>	<b>7,207</b>
				<b>純資産合計</b>	<b>83,305</b>	<b>108,344</b>	<b>25,039</b>
				<b>② 負債純資産合計</b>	<b>137,556</b>	<b>169,463</b>	<b>31,907</b>

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

### 資産合計、負債純資産合計

### Point ① & ②

資産の部合計は前年同期比23.2%増の1,694億6千3百万円、負債の部合計は同12.7%増の611億1千8百万円、純資産の部合計は同30.1%増の1,083億4千4百万円となりました。これは主として、アシックス商事株式会社およびその子会社を持分法適用関連会社から連結子会社に異動したことに伴い、資産・負債が全般的に増加したことによるものです。

## 連結財務諸表

### 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間連結会計期間 (平成18年4月1日～ 平成18年9月30日)	当中間連結会計期間 (平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)
売上高	95,403	108,735
売上原価	53,986	60,290
売上総利益	41,416	48,445
販売費及び一般管理費	30,610	35,863
営業利益	10,805	12,581
営業外収益	1,750	1,862
営業外費用	523	1,190
経常利益	12,032	13,252
特別利益	137	617
特別損失	39	488
税金等調整前中間純利益	12,130	13,381
法人税、住民税及び事業税	4,562	4,074
法人税等調整額	130	734
少数株主利益	422	281
<b>中間純利益</b>	<b>7,014</b>	<b>8,291</b>

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

### 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前中間連結会計期間 (平成18年4月1日～ 平成18年9月30日)	当中間連結会計期間 (平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,488	6,670
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,972	△839
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,540	260
現金及び現金同等物に係る換算差額	94	620
現金及び現金同等物の増加額又は減少額	△930	6,712
現金及び現金同等物の期首残高	12,055	10,196
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,124	16,908

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

### 中間連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

当中間連結会計期間 (平成19年4月1日～平成19年9月30日)	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等					少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年3月31日残高	23,972	17,182	43,458	△550	84,062	3,691	184	△747	2,519	5,648	3,455	93,165
中間期中の変動額												
剰余金の配当			△1,592		△1,592							△1,592
土地再評価差額金取崩			△747		△747			747		747		
中間純利益			8,291		8,291							8,291
自己株式の取得				△103	△103							△103
株主資本以外の項目の中間期中の変動額						△620	△27		2,528	1,880	6,702	8,583
中間期中の変動額合計			5,951	△103	5,848	△620	△27	747	2,528	2,627	6,702	15,179
平成19年9月30日残高	23,972	17,182	49,410	△654	89,910	3,071	156		5,047	8,275	10,158	108,344

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

### 中間純利益

Point ③

売上高の増加と売上原価率の改善により、営業利益は前年同期間比16.4%増の125億8千1百万円、経常利益は同10.1%増の132億5千2百万円となり、中間純利益は同18.2%増の82億9千1百万円となりました。

### キャッシュ・フロー

Point ④

営業活動によるキャッシュ・フロー  
営業活動の結果得られた資金は66億7千万円となりました。収入の主な内訳は税金等調整前中間純利益、支出の主な内訳は法人税等の支払です。

投資活動によるキャッシュ・フロー  
投資活動の結果使用した資金は8億3千9百万円となりました。収入の主な内訳は連結範囲の変更を伴う子会社株式取得による収入、支出の主な内訳は有形・無形固定資産取得および投資有価証券の取得です。

財務活動によるキャッシュ・フロー  
財務活動の結果得られた資金は2億6千万円となりました。収入の主な内訳は短期借入金の純増加、支出の主な内訳は配当金の支払です。

## 単体財務諸表

### 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前中間 会計期間末 (平成18年9月30日)	当中間 会計期間末 (平成19年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産	47,225	47,063
固定資産	41,595	45,702
<b>資産合計</b>	<b>88,820</b>	<b>92,766</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	20,628	22,892
固定負債	12,777	9,077
<b>負債合計</b>	<b>33,406</b>	<b>31,969</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	51,963	57,757
資本金	23,972	23,972
資本剰余金	17,182	17,182
利益剰余金	11,271	17,256
自己株式	△463	△654
評価・換算差額等	3,450	3,039
その他有価証券評価差額金	3,268	3,059
繰延ヘッジ損益	182	△19
<b>純資産合計</b>	<b>55,413</b>	<b>60,796</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>88,820</b>	<b>92,766</b>

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

### 中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	前中間会計期間 (平成18年4月1日～ 平成18年9月30日)	当中間会計期間 (平成19年4月1日～ 平成19年9月30日)
<b>売上高</b>	<b>33,370</b>	<b>35,282</b>
<b>売上原価</b>	<b>20,026</b>	<b>20,925</b>
売上総利益	13,343	14,356
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>11,535</b>	<b>12,313</b>
<b>営業利益</b>	<b>1,808</b>	<b>2,043</b>
営業外収益	3,098	4,067
営業外費用	151	686
<b>経常利益</b>	<b>4,755</b>	<b>5,425</b>
特別利益	97	452
特別損失	17	473
<b>税引前中間純利益</b>	<b>4,835</b>	<b>5,403</b>
法人税、住民税及び事業税	1,698	930
法人税等調整額	84	254
<b>中間純利益</b>	<b>3,052</b>	<b>4,218</b>

注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

当社創業者であり、取締役会長の鬼塚喜八郎(おにつか きはちろう)が、9月29日逝去しました。そこで、アシックスの原点を築いた鬼塚の創業初期からの取り組みを“ころんだら、起きればよい。鬼塚喜八郎「失敗の履歴書」”と題し、6か国の言語に翻訳してウェブサイト(<http://www.asics.co.jp>)に掲載しました。その一部をご紹介します。



周囲を幸せにして初めて自分も幸せになれる。会社を家族的運命共同体と呼んだ。

鬼塚喜八郎は、毎年新入社員を前にして、古代から近代へと引き継がれたスポーツマン精神の5か条を、いつも声高らかに読み上げていた。

(第1条) スポーツマンは、常にルールを守り、仲間に対して不信な行動をしない。

(第2条) スポーツマンは、礼儀を重んじ、フェアプレーの精神に徹し、いかなる相手もあなどらず、たじろがず、威張らず、不正を憎み、正々堂々と尋常に勝負する。

(第3条) スポーツマンは、絶えず自己のベストを尽くし、最後まで戦う。

(第4条) スポーツマンは、チームの中の一員として時には犠牲の精神を発揮し、チームが最高の勝利を得るために闘わなければならない。そこに信頼する良き友を得る。

(第5条) スポーツマンは常に健康に留意し、絶えず練習の体験を積み重ね、人間能力の限界を拡大し、いついかなる時でもタイミング良く全力を発揮する習慣を養うことが必要である。

戦後の混乱期、スポーツの意味することが、これからの生活、社会、ビジネスなどのあらゆる場面に必要になると感じた鬼塚喜八郎。人間の価値基準や行動基準が変わり、人々が穏やかな気持ちで過ごすことが困難になりつつある昨今、ここで定義されているスポーツマンは、確かに、現代を生きるすべての人の道標になると思う。

そして、ここに新たな条項をひとつ、加えたい。

(第6条) スポーツマンは、ころんだら、起きればよい。失敗しても成功するまでやればよい。

今一度、あなた自身の人生に置き換えて読んでほしい。

“ころんだら、起きればよい。鬼塚喜八郎「失敗の履歴書」より

### 鬼塚 喜八郎 経歴

- 1918年 5月 鳥取県気高郡明治村大字松上(現 鳥取市松上)に生まれる。
- 1936年 鳥取県立鳥取第一中学校(現 鳥取県立鳥取西高等学校)卒業。
- 1946年 満7か年の軍務から復員後、神戸に出て3か年のサラリーマン生活。
- 1949年 スポーツシューズ専門メーカー「鬼塚(株)」を創設し、代表取締役社長に就任。
- 1977年 スポーツ用品メーカーの(株)ジィティオ、スポーツウェアメーカーのジエレンク(株)の二社と合併し、(株)アシックスの代表取締役社長に就任。
- 1992年 (株)アシックス代表取締役会長に就任。
- 1995年 (株)アシックス取締役会長に就任。



## 会社の概況 (平成19年9月30日現在)

### 会社概要

社名	株式会社アシックス
創業	昭和24年9月1日
資本金	239億7千2百万円
事業内容	各種スポーツ用品および各種レジャー用品 の製造および販売
本社所在地	〒650-8555 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL: (078) 303-2231 FAX: (078) 303-2241
従業員数	4,908名 (連結)

### 役員

代表取締役社長	和田 清 美
代表取締役専務取締役	爲 定 涼 次
専務取締役	岡 田 充 弘
常務取締役	清 水 裕 一 郎 尾 山 基
取締役	織 田 信 雄 千 原 芳 雄 池 崎 俊 郎 河 合 茂 之
常勤監査役	森 井 潔 岩 崎 隆
監査役	米 田 准 三 高 橋 靖 夫

### 営業所

関東支社
〒130-8585
東京都墨田区錦糸4丁目10番11号
TEL: (03) 3624-2240
関西支社
〒661-8577
兵庫県尼崎市潮江1丁目3番28号
TEL: (06) 6496-5111

### 直営店舗 (平成19年11月30日現在)

歩人館
43店舗
オニツカタイガー
国内11店舗、海外12店舗
アシックスライフール
5店舗
アシックスファクトリーアウトレット
10店舗
アシックススポーツスタイルショップ
1店舗
アシックスストア
1店舗

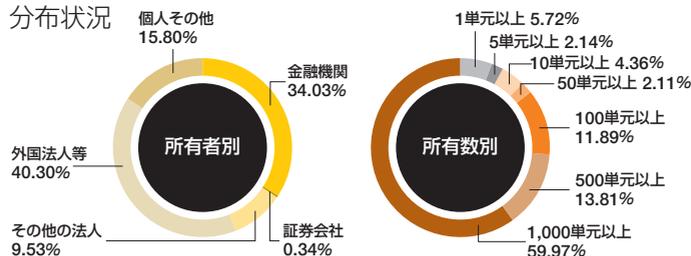
## 株式状況

発行可能株式総数 790,000,000株  
 発行済株式の総数 199,962,991株  
 (うち自己株式 1,018,192株)

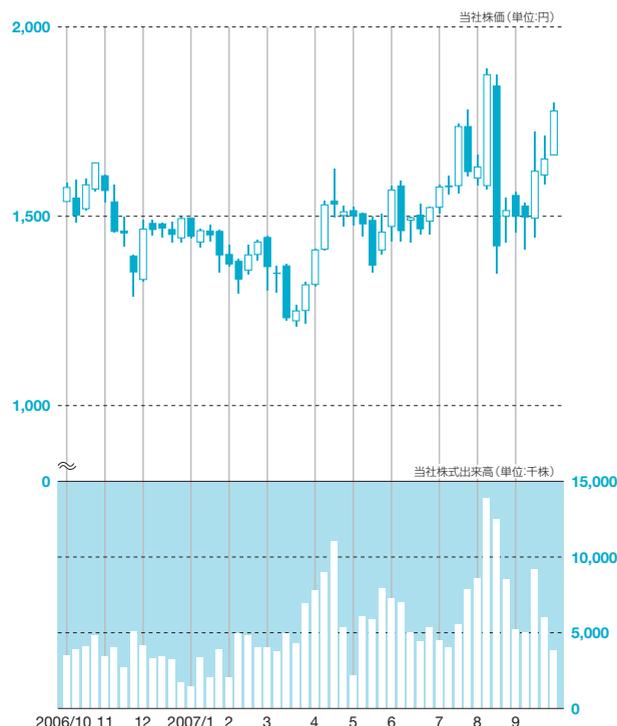
株主数 13,003名  
 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
ユービーエス エージー ロンドン アカウント アイピービー セグリゲイテッド クライアントアカウント	11,148	5.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,576	4.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,559	4.3
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,858	3.9
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	7,243	3.6
日本生命保険相互会社	6,310	3.2
ピーピーエイチ フォー バリアブル インシュランス プロダクツ エフティスリー エムアイディー キャップポート	5,777	2.9
株式会社三井住友銀行	5,607	2.8
株式会社みずほコーポレート銀行	5,558	2.8
ノーザントラスト カンパニー エイブイエフシー リフィデリティ ファンス	4,493	2.2

## 分布状況



## 株価・出来高チャート(週足)



## 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日  
 定時株主総会 6月中  
 株主名簿管理人 みずほ信託銀行株式会社  
 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 同事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
 同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
 みずほインバスターズ証券株式会社  
 本店および全国各支店

郵便物送付および  
 電話お問い合わせ先 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部  
 〒135-8722  
 東京都江東区佐賀一丁目17番7号  
 電話0120-288-324 (フリーダイヤル)

基準日  
 期末配当金受領  
 株主確定日 3月31日  
 公告掲載新聞 日本経済新聞(大阪)

IRに関する発表資料、決算発表資料、アニュアルレポート(英文)など株主・投資家向けの情報については当社ホームページ(<http://www.asics.co.jp>)に掲載しています。